

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGAGolf Journal

特集1 JGAハンディキャップ査定システム
「J-sys」導入について



特集2 クイーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権
大会コーディネーター スワン女史インタビュー

特集3 アンチ・ドーピングへの取り組み

JGA ハンディキャップ査定システム「J-sys」導入について

より公平なハンディキャップの浸透こそ、ゴルフの楽しみを深め、正しい普及につながります

日本ゴルフ協会(JGA)では、本年1月から新たにインターネットを利用したネットワーク型コンピュータシステムのJGAハンディキャップ査定ソフト「J-sys」を導入した。近い将来、JGAが主催するアンダーハンディ競技も予定されている。JGAがこの「J-sys」を導入した理由と、期待されるその効果を、諸戸ハンディキャップ委員長に伺ってみた。



(財)日本ゴルフ協会 理事
ハンディキャップ委員会 委員長 諸戸 精孝

JGAでの一括管理により、より公平なHdcpの算出が可能になった。

— ゴルファーにとってJGAハンディキャップ(Hdcp)はとても馴染深いものですが、今回の導入は、一般ゴルファーも興味津津ではないかと思いますが。
諸戸 これまでJGA Hdcpは、JGAが査定したコースレーティングを基に、各倶楽部をはじめ、各都道府県競技団体等からゴルファーに発給されていますが、その実態はそれぞれの発給先にお任せの状態でした。そのHdcpのデータをJGAが初めて共有し、一括管理することで、従来よりもいっそう公平なHdcpが算出されるようになります。さらにより多くのデータを蓄積することで、将来の規定改正やコースレーティング査定方法の見直しの際、基礎データに活用できる効果が期待できます。

さらにこの「J-sys」のネットワーク化が進めば、新たなきめ細かいさまざまなサービスが提供できるようになると思います。

— 公平性とサービスについては後ほど伺いたいと思いますが、今回新たに導入された「J-sys」についてご説明下さい。

諸戸 実は現行のHdcp規定制定(1978年)当時から30年もかけて、関東ゴルフ連盟で開発・運用してきたコンピュータシステムなのです。関東ゴルフ連盟ではすでにゴルファー13万人に浸透しており、極めて信頼度の高いコンピュータシステムであることが実証されているため、今回JGAでの導入に踏み切ったわけです。

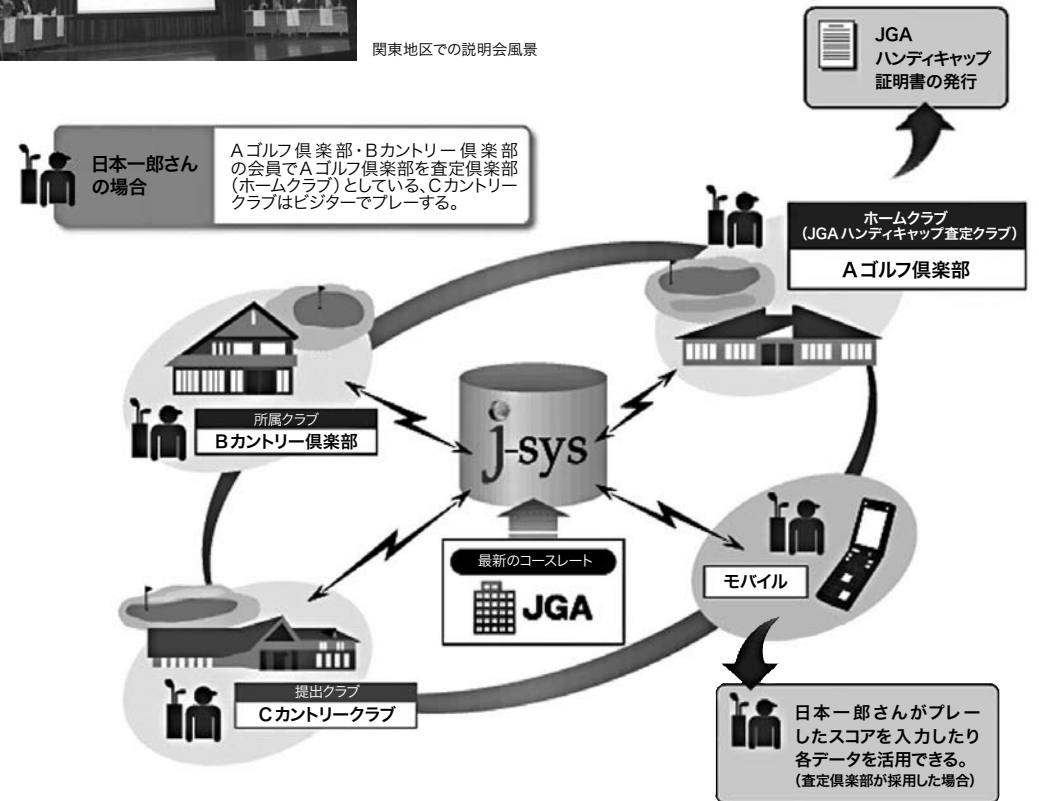
簡単に説明すると、ゴルファーが提出したスコアデータを倶楽部で入力し、そのデータを元にJGAでHdcpを算出して、倶楽部から各ゴルファーにお知らせする、ということになります。

— ゴルファーは、直接JGAにスコアデータを送るのですか？

諸戸 今までどおり倶楽部にスコアカードを提出することに加え、倶楽部のHdcp委員会が許可すれば、ご自身で携帯電話を使用してスコアを



関東地区での説明会風景



送信してもらうことも可能です。
また、倶楽部のHdcp委員会がスコアの入力を許可しなかったとしても、携帯電話で自分のHdcpの履歴が確認できたり、次のラウンドでスコアが幾つなら、Hdcpはどうなるのか、パット数やフェアウェイを捉えたティーショット数などを入力すれば、平均パット数やフェアウェイキープ率などの情報も手に入るんですよ。
— それは凄い。毎回のラウンドのいい励みになりそうなサービスですね。公平性ということについては、新システムはどのように反映されるのですか？
諸戸 そもそもHdcpは、“その時”のゴルファーの力量を現す数値です。従って一人でも2つも3つもHdcpを持ったり、半永久的に固定されるということはありません。
— でも現状では、幾つかの倶楽部に所属し、それぞれの倶楽部からHdcpを発給されているゴルファーも少なくない。確かに、不思議な現象ですね。
諸戸 J-sysが普及し、そのネットワーク化が図れ

れば、倶楽部間の差、地域間の差がなくなり、全国的に公平なHdcpが発給されるわけです。
— 専用のコンピュータシステムでの処理なら、結果も迅速ですね。
諸戸 各倶楽部メンバーなら、倶楽部を通じて1ヶ月に1回の更新となります。Hdcpの新規取得も、倶楽部メンバーなら倶楽部からの発給です。ただ毎月Hdcpが更新されることについては、「ゴルフの技量はそんなに短時間で変化しない」など、いろんな意見があります。そうした意見も検討しながら、今後、さらにHdcp規定を進化させていかなければいけないでしょう。「一人のゴルファーに一つのHdcp」は、公平性の第一歩です。

プライベートコンペでも活用できる「一人一つのHdcp」を。

— JGA Hdcpシステムの整備は、ゴルファーにとってどのような影響があるのでしょうか。



諸戸 ゴルファーの現状を見ますと、メンバーとして倶楽部に所属しているゴルファーが250万人、それ以外のゴルファーが800万人と推定されます。その中で各倶楽部競技に参加される方や、JGAなどの主催競技に参加される方は、オフィシャルなHdcpの取得が必要です。参加資格の中にHdcpがありますからね。

それ以外のゴルファーも、プライベートコンペなどで独自のHdcpを持っています。それこそ参加するコンペの数だけHdcpを持っている方もいるかも知れない。このように、プライベートHdcpを加えたら、日本中に数え切れないほどのHdcpがあるわけです。将来的には、そうしたHdcpをJGA Hdcpで完全に一元化できればと思っています。そうすれば、腕前や性別、年齢、キャリアに関わらず、全てのゴルファーが同じ舞台上で競い合えるではないですか。

— 日本オープンに出場しようかというトップアマは、まったく別世界のゴルファーのように感じていましたが、公平なHdcpを介することで、誰でも一緒に

プレーできるわけですからね。

諸戸 そこがゴルフの素晴らしさの一つだと思います。

— JGAは中央競技団体であり、どうしても上級ゴルファーだけのための団体という印象が強かったのですが、今回のコンピュータシステムの導入は、全ゴルファーの方に向けた改革のようですね。

諸戸 すでにJGA主催競技参加者には、2010年からJ-sysによるJGA Hdcp取得を義務付けています。各地区連盟では既に開催されていますが、JGAでも全国規模のアンダー Hdcp競技会も計画中です。

— 日本アマや日本オープンが夢のまた夢でも、アンダー Hdcp競技なら、頑張り甲斐がありますからね。プライベートコンペでも、ヘリアや新ヘリアのHdcpより、公平性のあるJGA Hdcpの方が真剣にラウンドに取り組みます。

諸戸 隠しホールによって算出されるHdcpは、それぞれラウンド毎で違ってきます。そこには要素も加わるわけですね。時にはそれも楽しいでしょうが、自分の実力を精一杯発揮し、その結果がスコアに現れた方が、はるかに前向きにゴルフに取り組めるでしょう。

— 結局ベリア式のHdcpは、参加者の実力がはっきりしないがための策、という側面もありますからね。誰もが公平なHdcpを持っていれば、次第に必要ななくなってきそうですね。

諸戸 そうやって一人でも多くのゴルファーに、ゴルフの本当の楽しさを知ってほしい。JGAとしては、全ゴルファーが自分のオフィシャルなHdcpを持ち、それを基準にゴルフを楽しむことこそ、将来的なゴルフの普及につながると確信しているのです。

日本独自の、そして世界的に通用する正しいHdcpシステムを目指す。

— 「J-sys」の導入のほかに、JGA Hdcp規定の改正はありますか？

諸戸 現行の規定は2004年に改正され、翌年から実施したものです。この改正で、それまで40で打ち切りだったHdcpが50.0まで拡大されました。また小数点(第一位まで)が登場したのも、この時の改正からです。もちろん今後もさらに改良に努めるべきと考えています。

— 確かに、50.0まで拡大されたことで、ゴルファーの裾野はグッと拡大したことでしょう。でも、小数点以下のHdcpの浸透具合はいかがですか？多くの



倶楽部では、未だに整数で示されたHdcpボードがよく見受けられます。

諸戸 中には50音順のメンバーボードにして、その名前の下にHdcpを記す倶楽部もあるようですが、もっと浸透させなければいけないでしょうね。

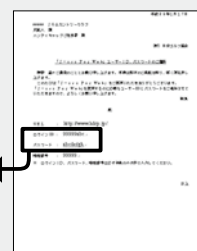
— 諸外国でも、こうしたHdcpシステムの変化は起こっているのですか？

諸戸 海外を見渡せば、それはもう大きな違いに驚くばかりです。全米ゴルフ協会(USGA)では、同じコースであっても使用するティーによってプレーするHdcpを算出しています。

例えばHdcp10のゴルファーがAゴルフ倶楽部でラウンドするとして、レギュラーティーからなら10だけど、バックティーなら11、フルバックなら12という具合。それはもう、はっきりとしている。

J-sysへのログイン

J-sysトップメニューのログインID、PASSWORD欄に、JGAより送付します『J-sys For Web』ユーザーID、パスワードのご連絡』に記載されておりますログインID、パスワードを入力し「J-sys」にログインします。



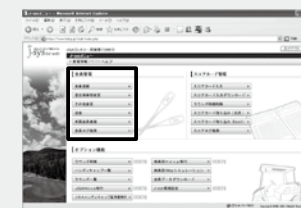
J-sysの機能紹介

J-sysのメニューは3つのカテゴリーに分かれています。
『会 員 管 理』⇒会員登録、変更、退会など
『スコアカード管理』⇒スコアカードの入力や削除など
『オプション機能』⇒会員スコア情報の閲覧、会員情報の条件による抽出、JGA Hdcp証明書の印刷など



J-sysの機能紹介(会員管理機能)

会員の新規登録、情報変更、退会処理などを行う場合に使用する機能です。



会員管理	
会員登録	新規会員の登録する場合に使用します。
査定倶楽部変更	査定倶楽部を変更する場合に使用します。
その他変更	会員の名前、住所などの会員情報を変更する場合に使用します。
退会	会員を退会する場合に使用します。
所属会員登録	別倶楽部で査定倶楽部会員としてJ-sysに登録されており、その会員に対し所属登録をする場合に使用します。 ※所属会員登録をする事で、その会員の情報を管理する事が出来ます。
会員ログ検索	倶楽部で会員に対する操作(新規登録、退会など)の履歴を確認する場合使用します。



— ということは、そこでプレーするゴルファーは、自分のHdcpを持っていることが前提となっているのですね。

諸戸 中には事前にHdcpの提示を求める倶楽部も少なくないですよ。また豪州や英国では、ラウンド当日の季節や天候を加味したHdcpがあります。

— そうなんですか。昨今では外国でラウンドされる日本人ゴルファーも増えてきましたが、そうした事情を知らない戸惑ってしまいますね。

諸戸 日本以上にHdcpを重視しているように感じますね。ビジネスでラウンドすることもあります。外国のゴルファーは必ずのように「Hdcpは？」と聞いてきます。それだけゴルフのHdcpは、公平性のあるしっかりしたものでなくてはいけないのです。

— コンペのプライベートHdcpしか持っていないようでは、ゴルファーとして恥かしいですね。

諸戸 だからこそ、もっと「JGA加盟倶楽部の

メンバーになっていただくか、JGA個人会員になれば誰でも公平性のあるJGA Hdcpが取得できる」と、アピールしていかなければいけないと思っています。

全国統一のHdcpで、さらに広がるゴルフの楽しみ。

— さて、J-sysは、今年度からの導入ということですが、これはJGAと各加盟倶楽部だけの事業ですか？それともゴルファー個々へのものですか？

諸戸 基本的には、まず、加盟倶楽部に導入するように要請しています。そして所属倶楽部を持たないゴルファーには、JGA個人会員として、JGAから直接オフィシャルなHdcpを発給する。JGAとしては、そうした取り組みのPRなどに、いっそう力を入れていこうと考えています。

— 今年1月からの新システム導入後、その浸透の度合いは？

諸戸 3月に全国の地域の代表に説明してきました。もっとも従来も各倶楽部でメンバーのスコアを集計し発給してきたわけで、何でもいままらJGAのコンピュータシステムで…、という声もあります。でもこれまでご説明した通り、全国で統一されたHdcpを発給するためには、どうしても全国的なこのネットワーク

が不可欠なので、お願いしているところです。ただ、その最低限のランニングコストは発生するため、各倶楽部メンバーには一律420円(年間)、それ以外のゴルファーについては一律735円(年間)のご負担をいただきます。

— 携帯電話でHdcpの履歴が確認できたり、平均スコアやパット数、フェアウェイキープ率まで分かるのであれば、サービスの割に廉価だと感じます。

諸戸 ゴルフの素晴らしさは、年齢や性別、キャリアを超えて、誰もが同じフィールドで一同に楽しめるところにあります。これはまさにゴルフならではの特徴です。その素晴らしさも、そこに公平なHdcpがあってこそ、成り立つわけです。諸外国のHdcpへの取り組みは、その現れでしょう。日本でも、ゴルファーがもっとゴルフを楽しみ、そしてゴルフをより普及させる。そのためにも、このコンピュータシステムの普及は不可欠なのです。

各倶楽部、そして多くのゴルファーの皆さんに、そのところをご理解いただきたいと思っております。

— いち早く公平なHdcpが全ゴルファーに浸透し、日本中のゴルファーが全国各地で一斉に同一大会で競い合う、そんな日が来ることを楽しみにしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

モバイル「J-sys」で確認出来るもの



- ・スコア入力・削除※
- ・現在のJGA Hdcp
- ・最新計算JGA Hdcp
- ・過去最高JGA Hdcp
- ・査定履歴(過去10枚)
- ・過去のラウンド履歴(2年以内の直近20枚)
- ・ベストスコア
- ・ワーストスコア
- ・平均スコア
- ・パーティ率
- ・パー率
- ・ボギー率
- ・ダブルボギー率
- ・平均パーオン率
- ・平均ボギーオン率
- ・フェアウェイキープ率
- ・OB率及び回数
- ・池ボチャ率及び回数
- ・目標JGA Hdcpへの目標スコア
- ・今日のスコア結果によるJGA Hdcpシミュレーション

※査定倶楽部がモバイルJ-sysの利用を採用した場合

J-sysの機能紹介(スコア管理機能)

スコアカードの登録や削除、スコアカードを一括で取り込む場合に使用する機能です。



- | スコアカード管理 | |
|-------------------|--|
| スコアカード入力 | 全国のJGAコースレートを持つ倶楽部でラウンドされたスコア情報を入力する場合に使用します。 |
| スコアカード入力ダウンロード | J-sysで利用されます回線速度が遅いとJ-sys利用時のレスポンスが悪く、使用者に運用の負荷が掛かります。そのような場合は、Excel版スコアカード入力でスコア登録を行い、一括でJ-sysに取り込む事で使用者の運用負荷を軽減する為の機能です。 |
| ラウンズ明細削除 | 誤った内容で登録されたラウンズ情報を削除する場合に使用します。 |
| スコアカード取り込み(汎用) | J-sys 取り込み専用のレイアウトで作成されたスコア情報を、一括でJ-sysに登録する場合に使用します。 |
| スコアカード取り込み(Excel) | 『スコアカード入力ダウンロード』でダウンロードした Excel版スコアカード入力で作成されたスコア情報を、一括でJ-sysに登録する場合に使用します。 |
| スコアログ検索 | 倶楽部会員に対するスコア登録の履歴を確認する場合に使用します。 |

J-sysの機能紹介(オプション機能)

会員のスコア情報の閲覧、会員情報の抽出、JGA Hdcp 証明書の印刷など、会員情報を管理する為に必要となる付加機能です。



- | オプション機能 | |
|------------------|--|
| ラウンズ明細 | 会員のJGAHdcp情報やラウンズ登録状況を確認する事が出来ます。 |
| ハンディキャップ一覧 | ハンディキャップ値、ハンディキャップの変更有無、年齢、性別など、様々な条件で会員を抽出し、ハンディキャップ情報に関する帳票を一覧で印刷する事が出来ます。 |
| ラウンズ一覧 | |
| JGAHdcp移行 | 初期導入時、倶楽部で管理していたHdcp値を一括で登録する事が出来ます。 |
| JGAハンディキャップ証明書発行 | JGAHdcp証明書(A4版)を一括、または会員指定にて印刷する事が出来ます。 |
| 倶楽部Hdcp移行 | 【倶楽部Hdcp関連】 |
| 倶楽部Hdcpシミュレーション | 倶楽部ハンディキャップをJ-sysで管理する場合に使用します。 |
| 会員データダウンロード | J-sysに登録されている倶楽部の会員情報をダウンロードし、エクセル等で利用する事が出来ます。 |
| J-sys環境設定 | J-sysログイン時のパスワード変更、倶楽部Hdcp管理方法の設定、モバイルJ-sysのID、パスワード通知書の印刷帳など、倶楽部にて管理者権限を持つ方のみ提供される機能です。 |

クィーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権大会コーディネーター スワン女史インタビュー

アジア太平洋地域随一の女子国際競技を生み出した、タイ女子ゴルフ界のカリスマ。

過去30年間に渡り、「クィーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権」の総責任者として大会運営に携わり、世界トップクラスの女子ゴルフ国際競技へと育て上げたスワン女史。

その驚異的な行動力の源は、飽くなき“友情”へのこだわりだった。

とりわけ今回は、当初予定されていたスリランカでの開催が危ぶまれる中、急遽、スワン女史から日本での開催要請がなされた。JGAでは、アジア太平洋地域の女性ゴルフの普及・発展に大きく貢献してきた本大会を受け入れるべく国際委員会、競技委員会で準備態勢を整えるとともに開催コースや大会への支援方を検討し、コースについては袖ヶ浦カントリークラブの全面的なご協力を頂き、経費面では松下電器産業(株)、(財)ミズノ国際スポーツ交流財団からのご支援を仰ぎながら30回の記念すべき大会が無事に開催される運びとなった。スワン女史から、インタビューの冒頭にこうしたホスト国への感謝の気持ちが述べられた。



クィーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権大会コーディネーター
Rae-Vadee T. Suwan

タイ女子ゴルフ協会の設立メンバー。クィーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権の大会コーディネーターとして、創設時より卓越した手腕を発揮。アジア太平洋地域の女子ゴルフ発展に大きく貢献した。

— 今から30年前、クィーンシリキットカップ創設当時のタイでは、女子ゴルフを取り巻く環境はどのようなものでしたか？

スワン 当時のタイでは、女性ゴルファーの数は非常に少なく、欧州諸国の外交官夫人などがクラブレベルでプレーを楽しんでいる程度でした。元国王ラーマ7世ご夫妻がとても熱心なゴルファーだった影響で、私を含めてタイの女性達もゴルフをするようになりましたが、女性ゴルファーの年齢層は高く、若い世代がゴルフを楽しめる環境ではありませんでした。そこで私たちは、タイの女子ゴルフを発展させたいと思うようになったのです。

— そして貴女は、タイ女子ゴルフ協会の設立メンバーに加わったのですか？

スワン 1978年、ロイヤル・バンコク・スポーツ倶楽部の女子キャプテンだった私は、他の倶楽部

の代表者と共にタイ女子ゴルフ協会を設立し、その年に第1回タイ女子アマチュアオープンを開催しました。というのも私は、それ以前から倶楽部対抗競技などを通じて、インドネシア、マレーシア、オーストラリアなどの大会に参加していたので、タイにも外国のプレーヤーに参加してもらえるような大会をつくりたいと考えていたからです。

— タイ女子アマチュアオープンの開催が、クィーンシリキットカップ誕生のきっかけとなったのですか？

スワン はい。タイ女子アマチュアオープンには、外国から多くのゴルファーが参加してくれました。しかし同時に、遠征費が払えないという理由で参加できなかった良いプレーヤーもたくさんいました。そこで私は、ひとつのアイデアを思いついたのです。それは、それぞれの国や地域を代表するゴルファーたちが、ナショナルチームのメンバーと



1979年タイで開催された第1回大会(上)ゴフケウ・パゴン女史から表彰を受ける第1回大会優勝の宮沢晴代氏(右)

して戦う大会をつくることです。

— 確かにナショナルチームの後ろ盾があれば、遠征費の問題は解決できますね。

スワン 当時のアジア太平洋地域には女子の国際競技はありませんでしたから、「とにかく今すぐ実現しなくては!」と思いました。国や地域の代表として戦うことは、ゴルファーにとって最高の名誉ですからね。そしてなによりも、国際競技に参加すれば、国境を越えてたくさんの素晴らしい友人と出会うことができます。大会を通して築いた厚い友情は、私たちにとって生涯の宝となるのです。

— 発案からわずか1年という短期間で大会は実現されるわけですが、どのような方法で参加チームを集めたのですか？

スワン 私たちは、アジア太平洋ゴルフ連盟(APGC)にコンタクトを取り、加盟する各協会に対して大会への参加を募りました。そして14の国と地域の中から9チームが参加して、1979年2月、タイのナバタニー・ゴルフコースで第1回大会を開催したのです。またその際、より多くの参加チームを集めるために、持ち回りの立派な優勝カップと、大会のシンボルとなる著名人の協力が必要であると私たちは考えました。そこで思いついたのが、タイのシリキット王妃に優勝カップを寄贈していただくことでした。



— それが“クィーンシリキットカップ”の由来ですね？

スワン シリキット王妃は、長年に渡ってタイ赤十字総裁を務めるなど、人道活動に積極的に取り組んでおられる方で、道徳的規範として国民に尊敬される存在です。ゴルフを含めてスポーツもお好きな方なので、大会のシンボルとしてはうってつけの人物でした。幸いなことに、私たちは王妃からカップの寄贈を授かり、更にお名前を大会名称に使用するお許しも得ることができたのですが、これはタイ女子ゴルフ協会初代会長を努めたゴフケウ・アパゴン女史の尽力によるものです。「キング杯」とか「クィーン杯」と称する大会は他のスポーツにもありますが、王妃のお名前を冠する大会は、世界中で本大会だけです。残念ながらゴフケウ・アパゴン女史は、本年度大会の直前5月19日に

102歳の長寿を全うされましたが、私たちは今、改めてその偉大な功績に心から感謝しています。

— そして記念すべき第1回大会では、日本チームが初代チャンピオンに輝きました。

スワン 日本に参加してもらうことは、私にとって最大の使命でした。最初の年はオーストラリアとニュージーランドの不参加が既に決まっていたので、強豪国の日本にはどうしても参加して欲しかったのです。当時はJGAとのコネクションがなくて困っていたのですが、偶然タイの代表選手の義父が元駐日公使だったことが分かり、早速その方を介してJGAに参加のお願いをしました。その結果、日本は水野正人キャプテン率いる素晴らしいチーム（宮沢晴代、石井羽留子、藤本麗子）を派遣してくれたのです。そして日本の優勝を私は誰よりも喜びました。だって次の年もディフェンディングチャンピオンとして出場してもらえますからね（笑）。

— 強豪国の参加が、大会を発展させる大きな要因となったのですか？

スワン その通りです。強豪国が期待通りの活躍をしてくれたおかげで、全てが良い方向に進んでくれました。特に最初の10年間は、日本、オーストラリア、ニュージーランドの参加が、大会を発展に導いてくれました。日本は初年度から2連覇を果たして大会を盛り上げてくれましたし、2年目から参加のオーストラリアは第3回大会（日本開催）で、地元日本を最終日の逆転劇で下して初優勝。その後3連覇を達成するなど、大会の中心的存在として大活躍しました。また、ホスト国優勝を阻まれた日本も、打倒オーストラリアを目指して翌年からも



活躍を続けてくれました。つまり、一度大会に参加すれば、勝っても負けても必ず毎年参加してくれるようになるのですよ（笑）。

— ニュージーランドの参加は、1984年の第6回大会からですね？

スワン それまでニュージーランドは、遠征距離などを理由になかなか参加してくれませんでした。第6回大会はオーストラリアでの開催。この絶好のチャンスを私は逃しませんでした。ニュージーランドはオーストラリアと仲が良いし、なにしろ隣国なので移動も簡単ですからね。そして遂に初出場を果たしたニュージーランドが、なんとその大会で優勝したのです。私にとってまさに思惑通りの展開で、それ以来ニュージーランドも私たちの仲間に加わりました。また、そのニュージーランドが初めてホスト国を努めた第11回大会では韓国が初優勝し、それ以降、新たな強豪国としてめざましい活躍を見せてくれています。

— ひとつの大会を30年も継続するのは簡単なことではありませんが、それを可能にした理由は何だと思えますか？

スワン 本大会は、ホスト国が参加チームを招待する方式を採用しています。期間中の宿泊費を含めた大会費用はホスト国が負担し、参加チームの負担はそれぞれの旅費のみです。ホスト国は14の加盟協会が毎年持ち回りで担当しますが、14年に1回であれば、それほど大きな負担にはなりません。本大会をこれほど長く続けることができたのは、第1回大会のキャプテン会議で私が提案したこのアイデアを、加盟協会の皆さんが承認してくれたおかげと感謝しています。また2005年には、本大会の意義がR&Aに認められ、第27回大会から協賛を受けられるようになりました。現在、参加チームの宿泊費などは、R&Aからの協賛金でまかなわれています。



第30回大会第2位 日本チーム 左から里深キャプテン、森田、宮里、藤本



開会式セレモニー（2008年日本）

— これまでの大会を通して、特に印象に残っている選手はいますか？

スワン 本大会には、毎年素晴らしい選手が出場しています。オーストラリアのカーリー・ウェブをはじめ、日本の宮里藍、諸見里しのぶ、フィリピンのジェニファー・ロザレス、韓国の朴セリ、金美賢、宋ボベなど、現在トッププロとして活躍しているプレーヤーは枚挙にいとまがありません。また過去の大会を振り返ると、女子ゴルフのレベルがめざましい進歩を遂げていることが分かります。30年前と比べると、チーム戦の優勝スコアは約50ストローク、個人戦は約30ストロークも縮まっていますからね。私の場合、未だに30年前のスコアが精一杯ですよ（笑）。

— 現在14の国と地域が大会に参加していますが、参加チームを増やして大会規模を拡大するお考えはありますか？

スワン それはありません。そもそも本大会の目的は、アジア太平洋地域的女子ゴルフ界がひとつにまとまり、お互いの友情を深めていくことです。そのためには、最小限の加盟メンバーが、密接に強い絆で結びつくことが最も重要なのです。ですから、14チームというのはちょうど良い数字だと考えています。私たちはこのメンバーで、長い年月をかけて厚い友情を育ててわけですし、これからも友情を更に深めていかなくはなりません。もし中東やオセアニアなどに地域を広げて参加チームを増やしたら、



大会費用が増大することは勿論ですし、なによりもメンバー同士の密接な関係が保てなくなります。そうすると、お互いの友情が薄れ、これまでに築いてきた大会の伝統を継承していくことも難しくなるでしょう。例えば、毎年参加チームすべての国旗を会場に掲げることも大切な伝統のひとつですが、チーム数が50とか60になってしまったら、国旗の掲揚だけでも大変ですからね（笑）。

— 最後に、クイーンシリキットカップの今後について展望をお聞かせ下さい。

スワン 現在私は、過去30年に渡る大会の歴史や記録をまとめる作業を進めています。インターネットなどを通して誰でも大会に関する情報を共有できるようにして、次世代の人たちに未来を託すためです。これまでに私たちが築いてきた歴史と伝統をもとにクイーンシリキットカップが更に発展し、アジア太平洋地域的女子ゴルフ界が、より一層強い絆で結ばれていくことを願っています。

● 第30回 クィーンシリキットカップ アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権



第30回の記念大会が日本で開催された

日本チームはホスト国優勝を狙うも2位に。韓国が11度目の優勝を連覇で飾る。

クィーンシリキットカップアジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権は、今年30回の記念大会を日本で開催した。会場は千葉県の袖ヶ浦カントリークラブ・袖ヶ浦コース。14の国と地域から41名の代表選手が集い、優勝杯をめぐる熾烈な戦いが演じられた本選手権。優勝は、自力に勝る韓国チームがチーム通算34アンダーパーで2位の日本チームに3打差をつけて大会最多の11度目の優勝を連覇で飾った。

日本でのクィーンシリキットの開催は1995年大会以来13年ぶり3度目。日本チームは、宮里美香、森田理香子、藤本麻子の3名で大会7度目の優勝を目標に事前合宿を行うなどホスト国優勝を目指して、強化に努めた。3人は、昨年に続いての代表選出。フィリピンでの本選手権では、最終ラウンドに強風のためスコアを崩し3位に終わっているだけに、リベンジを果たすべく、第1ラウンドから積極的なプレーを見せた。快晴無風の第1ラウンド。韓国と日本が他を寄せ付けぬ強さを見せて、本選手権をリードした。日本は爆発力が魅力の森田が10アンダーパーで個人戦首位タイに立つ活躍を見せると、宮里も7アンダーパーで後に続きチームトータル17アンダーパーにスコアを伸ばした。しかし、ライバル韓国もネイバズで個人戦2位入賞のJung-Eun Hanが1イーグル・8バーディーの完璧なプレーで10アンダーパーをマーク。Soo-Jin Yangも8アンダーパーと出色の出来で、チーム通算18アンダーパーと日本に1打差の首位で第1ラウンドを終えた。3位には9アンダーパーの台湾、2打遅れて4位にフィリピンが2チームの後を追う。

前日とは一転。雨と風で気温が10度以上も下がった

第2ラウンド。日本チームが藤本麻子の活躍でチームスコアを9打縮め、通算26アンダーパーで首位に立った。藤本は、スタートを手堅いプレーでパーセーブすると、前半5バーディー・ノーボギーの完璧な内容でスコアを伸ばす。10番こそこの日唯一のボギーを叩いたが、後半でも2打スコアを伸ばし67をマーク。この日ベストスコアタイでチーム戦首位の立役者となった。日本チームのエース宮里は13番でダブルボギーを叩くなど不安定なプレーも見られたが、2アンダーパーにスコアをまとめる。一方の韓国チームは、グリーンタッチを掴むのに手間取り、短いパットを決め切れないもどかしい展開に。エースのYoon-Kyung Heoが75を叩く不調も響き、日本チームに1打差の通算25アンダーパー。3位台湾、4位オーストラリアが続くが、トップ2チームとは10ストローク以上も差を広げられており、優勝争いは、日本と韓国に絞られる形となった。

冷たい風がコースを吹き抜ける厳しいコンディションとなった最終ラウンド。天候とは裏腹に日本と韓国の優勝争いは、終盤までもつれ込む熱戦となった。ホスト国優勝と昨年のリベンジを期してスタートした日本チームは、プレッシャーからかスコアを伸ばせずにいると、韓国チームもパッティングに苦しみバーディーチャンスを決め切れない。日本チームの先陣を切った宮里が前半38とスコアを崩すも、後半4バーディーを奪い、73でホールアウト。エースの責任を果たし、残り2人を待つ。韓国はHeoがこの日も不調でパープレー。この時点で日本は2打差で韓国をリードしていた。2人目の森田は体調が万全ではなく、74のパープレーに終わると、同組のYangが17、18番で連続バーディーを奪う会心のプレーで2チームは同スコアに。勝負のかかった最終組。藤本が前半35とスコアを伸ばし、日本チームの7度目の優勝に近づいたかと思われたが、個人戦首位と絶好調のHanが藤本を上回るプレーを見せた。前半で3バーディーを奪うと、後半も5バーディー・ノーボギーと完璧な内容で、後半パープレーの藤本を突き放すと、この日66のベストスコアをマーク。個人通算22アンダーパーで個人戦優勝とともに、韓国チーム逆転優勝の立役者となった。韓国チームはHanの活躍もありチーム通算34アンダーパー。日本チームに3打差をつけて大会最多となる11度目の優勝を連覇で飾った。



日本チーム 左から森田、宮里、藤本

第30回 クィーンシリキットカップ
アジア太平洋女子招待ゴルフチーム選手権

開催日：2008年5月28日(水)～30日(金)
開催地：千葉県
開催コース：袖ヶ浦カントリークラブ 袖ヶ浦コース
参加国と地域：オーストラリア、中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ
選手団：キャプテン：里深真弓(女子ナショナルチーム強化部会長)
コーチ：二宮薫(女子ナショナルチーム強化部委員)
選手：藤本麻子(作陽高校3年)
宮里美香(オリオン嵐山GC)
森田理香子(朽木GC)

[団体成績]

順位	国名	1R	2R	3R	TOTAL
1	韓国	130	141	139	410
2	日本	131	139	143	413
3	台湾	139	143	145	427

[個人成績]

順位	選手名	国名	1R	2R	3R	TOTAL
1	Jung-Eun Han	韓国	64	70	66	200
2	宮里美香	日本	67	72	71	210
3	藤本麻子	日本	71*	67	72	210
4	Soo-Jin Yang	韓国	66	71	73	210
5	Cathryn Bristow	ニュージーランド	71	70	70	211
6	Lidya Ivana Jaya	インドネシア	70	69	73	212
7T	Tzu-Chi Lin	台湾	70	72	71	213
	森田理香子	日本	64	75*	74*	213
9T	Stephanie Na	オーストラリア	73	72	71	216
	Pei-Ying Tsai	台湾	69	71	76	216

*印のスコアはチーム合計にカウントされません。



優勝した韓国チーム

アンチ・ドーピングへの取り組み

「知らない」では済まされない。
だから正しい知識と徹底した自己管理が求められる。

いまやスポーツ界の世界的な常識となっているアンチ・ドーピング(ドーピング防止)。これに呼応するように、ゴルフ界でもこの動きは活発になっており、昨年からは日本アマ、日本女子アマで競技会検査が開始された。さらに、来年の日本オープン、日本女子オープンでの実施を前に、プロの世界でもアンチ・ドーピングを当たり前のものにしようと、JGAを中心に、関係各団体が普及、啓発活動を行っている。その中心となるアンチ・ドーピング委員会の水野正人委員長に、その活動と今後について聞いた。



(財)日本ゴルフ協会 理事
アンチ・ドーピング委員会 委員長 水野 正人

— アンチ・ドーピングの基本的なことと、ゴルフ界の動きの概要を教えてください。

水野 アンチ・ドーピングの概念がスポーツ界に浸透して以来、色々なスポーツがそれについて考えてきました。けれども、ゴルフというのは「紳士のスポーツ」と言われ、自らが自らを裁くという稀なスポーツです。それだけに、ドーピングのようなことは考えられないと思われ、長い間、話題にもなりません。しかし、ドーピングそのものは、各スポーツで年々増えているのが現状です。それに対応するように、オリンピックでもアジア大会でも、アンチ・ドーピングというムーブメントが起こっています。現在、ゴルフは五輪競技ではありませんが、アジア大会と国民体育大会では正式競技です。そのため、きちんとした知識を持って対応しなければならないということになったわけです。

— ドーピングはなぜ、いけないのでしょうか？

水野 4つの理由があります。まず、健康を害すること。次にアンフェアであるということ。3番目には

社会悪であるということ。4番目にはスポーツの尊厳を損なうということです。

— 活動を統括しているのは？

水野 世界アンチ・ドーピング機構(WADA)です。

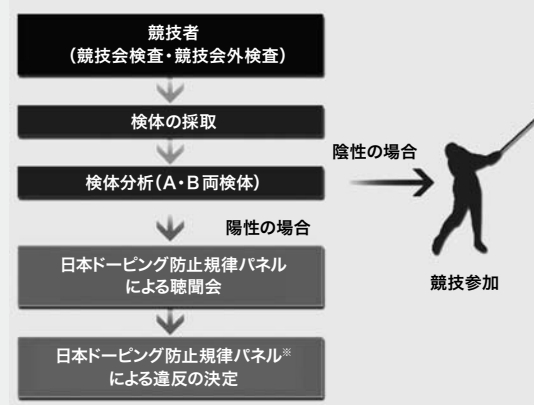
— 日本でも活動が行われ始めたのは？

水野 2007年、ユネスコの『スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約』が発効になりました。これは世界ドーピング防止規程(WADA code)に規定されている諸規則、条件を世界中の国々がきちんと実施していくことを求めるものです。この国際規約発効を受けて、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が、国内のドーピング防止活動を主導し、活動しているのです。

— ゴルフ界もその考え方に沿って活動しているわけですね。もう少し詳しく教えてください。

水野 JGAでもハンドブックを送付したり、HPで注意を促したり、競技会出場選手には度々、告知しています。とにかくアンチ・ドーピングの啓発と実践活動を行っています。

検査の主な流れ/陽性の場合の流れ



※日本ドーピング防止規程パネル:違反の主張に対して判断を下す、JADAに指名された第三者機関。



「スタジオアリス女子オープン」会場でのアンチ・ドーピング説明会

この他、男子ツアー競技の「つるやオープンゴルフトーナメント(会場:山の原ゴルフクラブ)」、日本プロゴルフ協会主催の「日本プロゴルフ選手権(会場:レーサムゴルフ&スパリゾート)」で出場選手への説明会を開催しました。

— アンチ・ドーピングを実践するには、競技者の側にも知識が必要ですね。

水野 その通りです。筋肉増強剤だけがドーピングだと思っている方も多いようですが、決してそういうわけではありません。リストを見ていただくとわかるのですが、禁止薬物はたくさんあるのです。

— 根本的には？

水野 健康に害のあるもの、競技力をアップさせるものだと思えばわかりやすいでしょう。また(競技の前に)摂取することのみが違反ではないということもよく覚えておいて欲しいところです。基本的には、摂取を企てても違反なんです。例えばですが、摂取したというきちんとした目撃証言があれば、反応がなくても違反になるんです。また、検査を回避した場合もクリーンだという証明ができないので違反となります。ですから検査を受けるのは義務なのです。さらに、日本代表レベルの選手に関しては、居場所情報をWADAに提出しなくてはなりません。どこにいても検査ができるように。連絡があったら検査が受けられる場所を指定し、そこで検査を受ける(競技外検査)。これを18ヶ月のうち3回受けられないと違反となるわけですね。

— なるほど。常に気をつけていなくてはいけないのですね。

水野 そうです。日本代表のメンバーはすでに経験しています。

— 他には？

水野 検査結果の改ざん、禁止薬物の所持、取引も違反です。

— ずいぶん細かいですね。

水野 規則ですから、どうしてもスキまがができます。細かくせざるを得ないのでしょう。

— ゴルフに関してもう少しおうかがいしたいと思います。まだまだゴルファーの中には、他の競技ならともかく、ドーピングとゴルフが結びつかないという声も根強いようです。

水野 確かにそうですね。でも、実際はそうとばかりも言えないのです。たとえばドーピングをしたことで力強くなれば、飛距離に影響があるかもしれません。また、あがり症の人が鎮静剤のようなものを使えば、パッティングなどで効果があるかもしれない。その逆に、気力をアップさせるためには興奮剤を使用することも考えられる。つまり、ドーピングが行われ、アンフェアになる可能性は、やはりないわけではありません。

— 本当ですね。これは気をつけないと。

水野 ですから、周知徹底を推進しています。

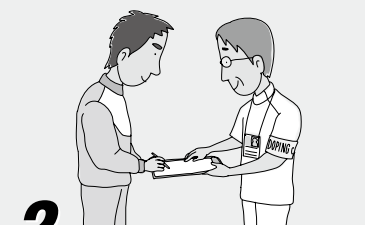
— 他のスポーツ以上に個人競技の色彩が強いゴルフでは、健康管理も最初から最後まで本人の責任です。そうすると、管理で難しい点はないでしょうか。

水野 IOC(国際オリンピック委員会)などは言い訳なしを宣言しており、陽性ならすべてアウトという考え方をしています。つまり、すべてを確実に選手本人の責任においてやるという必要があります。



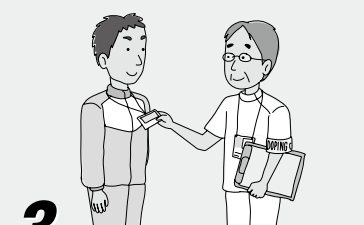
1 検査対象の通知

ドーピング検査は、シャペロンと呼ばれる通告・誘導係員より、あなたがドーピング検査対象に選ばれたことの通告を受けることから始まります。競技者には、所属チームの代表者及び必要な場合には通訳を同伴することが認められています。



2 通知を受けたことの確認のサイン

シャペロンから競技者の権利及び義務に関する説明を受け、通告書に記載されている内容を確認し、通告書にサインします。



3 ドーピングコントロール・パスの受領

サイン後、ドーピングコントロール・パスを受け取ります。ドーピングコントロール・ステーションに到着するまでシャペロンの監視のもとで行動することになります。通告書に指定されている時刻内に、写真身分証明書を持参し、ドーピングコントロール・ステーションに出席します。



7 サンプルキットの選択

3つ以上の未開封サンプルキットの中から競技者自身が自由に1つを選択します。サンプルキットを開け、Aボトル及びBボトルを競技者自身が取り出してください。取り出した2つのボトルの封印が破られていたり、ボトル自体が破損していないかなど確認をしましょう。



8 尿検体の分割／封印

サンプルキットのコード番号とボトルのコード番号が同じであることを確認します。DCOの指示に従い、尿検体をAボトル及びBボトルに注ぎ、確実に封印します。



9 pH及び比重の確認

採尿カップに少量の尿を残し、その尿で尿検体が分析可能な状態であることを確認します。DCOと競技者の双方で尿のpHと比重を確認します。

知らないではすまされない。知らないことがいけないということです。

—— きちんとした知識が必要で、それも含めたすべてが自己責任。それはゴルフの本質と同じですね。

水野 その通りです。ただ、日本という国の現状は、全体的に依存体質で指示待ちという傾向があります。それでは困るということですね。

—— ゴルフ界の世界的な動きはどのようなでしょう。

水野 実はインターナショナル・フェデレーション・オブ・PGAツアーズは、ドーピング禁止団体にまだ入っていないんです。けれども、各団体を独自にそこに入れようという動きはあります。私もそういう働きかけを行っています。

—— 選手たちの現状を見ると、風邪薬や喘息の薬、疲労時の注射、それにサプリメントなど、ドーピングにあたるものを摂取しているケースも多いようです。特に、毎週、試合のあるプロなどは、そういうものを摂取しながらでもプレーを続けるのが当たり前になっているようです。大丈夫でしょうか。

水野 ですから、我々の啓発活動が重要なのです。風邪薬でもOKなものや禁止のものがあります。意外なものも禁止になっていたりもするので、知識が必要になります。また、TUE(治療目的使用除外)と言って、治療上使わざるを得ない、他に代替治

療法が無いのであれば、申請し、禁止薬物でも使用できることもあるのですが、それでも使えない薬もある。サプリメントに関してもきちんと意識して摂る必要があるでしょう。

—— サプリメント？

水野 ええ。こう言ったらわかりやすいでしょうか。人間が100の力を持っているとして、これを100を出せるようにするのは違反ではない。けれども、100に対して110出せるようにするのはアンフェアであるということです。サプリメントは食事と同じという考え方なら有害ではないのですが、こう考えると禁止薬物が入っているサプリメントはいけないということになりますね。

—— 内容物をしっかりとチェックするということですか。

水野 でも、書いていないものが入っている場合などもあるので本当に注意が必要です。危ないと思ったら専門家に尋ねることです。

—— コンディションを整えて試合に臨むための努力との違いを判断することになりますか。

水野 そう。ゴルファーなら例えば、試合の前日は早く寝る、とか、冬ならできるだけ身体を温めてスタートするとか、そういうのは努力の範囲ですよ。競技のレベルをアップさせるために、何かをする。それは間違っていないんです。でも100以上にしようと

してはいけないんですよ。

—— 他のスポーツでは、残念ながらドーピング違反と判定された選手が時々、出ています。実際のところゴルフ界でこれまでに違反者が出たことはあるのですか。

水野 いいえ。私の聞いている範囲ではありません。それに、現在は検査結果が公表されますから。

—— 公表ですか？

水野 はい。検体を取ったら分析センターに送る。そして陽性なら、JADAに報告が行くんです。かつては各競技団体でしたから、ここが大きな違いですね。

—— 競技団体だと温情が入ってしまうからでしょうか。

水野 やはりそうでしょうね。そしてJADAから規律パネルに送られて審査され、裁定が下されるという流れです。これで陽性だった場合はJADAのHPに氏名が公表されます。

—— 私達でも見られるわけですか。

水野 誰でも見られます。

—— 陽性の裁定が下った場合の罰則も気になります。

水野 アマチュアの場合は1回目の違反で2年間のサスペンション(資格停止)。2回目の違反で永久資格停止となります。幅ができて、場合によっては情状もあることになりました。プロの場合は統括団体ごとに違います。

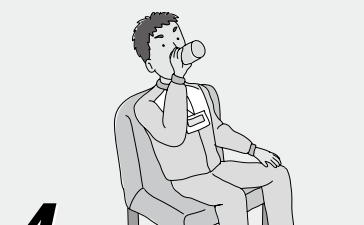


—— スポーツをする以上、積極的にアンチ・ドーピングに関わる必要があるのですか。

水野 そうです。スポーツマンが社会の一員であり、幅広く義務を全うすることで、スポーツの価値は保たれるのです。その点でも、より多くのゴルファーがアンチ・ドーピングについて知る努力をしなければなりません。IOC選手委員会などは『私たちは身の潔白を喜んで証明しましょう』という立場を取っていますよ。

—— JGAを始めとする各団体が行っているセミナーなどはそのいい機会ですね。参加するのが当たり前、という風潮になってほしいものです。

どうもありがとうございました。



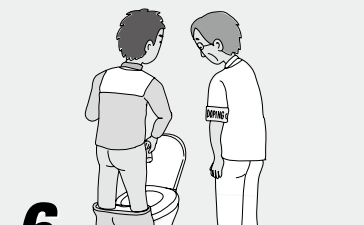
4 ドーピングコントロール・ステーションへの出席

ドーピングコントロール・ステーションの待合室には、スポーツドリンクなどが用意されています。尿意をもよおすまでリラックスして待ちましょう。



5 採尿カップの選択

尿意をもよおしたら、検体作成室に移動し3つ以上の未開封採尿カップの中から競技者自身が自由に1つを選択します。選択した採尿カップの封が破られていたり、カップ自体が破損していないかなど確認をしましょう。



6 尿検体の採取

競技者と同様のドーピングコントロール・オフィサー(DCO)の監視のもとで尿検体を採取します。監視の妨げになるズボン等は膝の下まで下げ、長い上着は脱ぎ、採尿の行程がDCOの視野に入る様になります。尿検体の最小必要量は、75mlです。



10 使用薬物の申告

少なくとも7日以内に使用した薬物及びサプリメントなどを申告して下さい。また、ドーピング検査全体を通してなにかコメントがあればコメント欄に記入します。氏名、性別等の個人情報、サンプルキットのコード番号及びその他の内容に関連が無いことを確認し公式記録書にサインします。



11 公式記録書コピーの受け取り

すべての記入事項が終了したら、公式記録書のコピーを受け取ります。公式記録書は複写式になっています。ピンク色のシートが競技者の控えとなりますので、大切に保管しましょう。



血液検体の採取

ドーピング検査の検体として血液が要求されることがあります。採血はドーピングコントロール・メディカルオフィサー(MO)または、MOの立会いのもと看護師、臨床検査技師によりおこなわれます。